

## 7. 科学技術

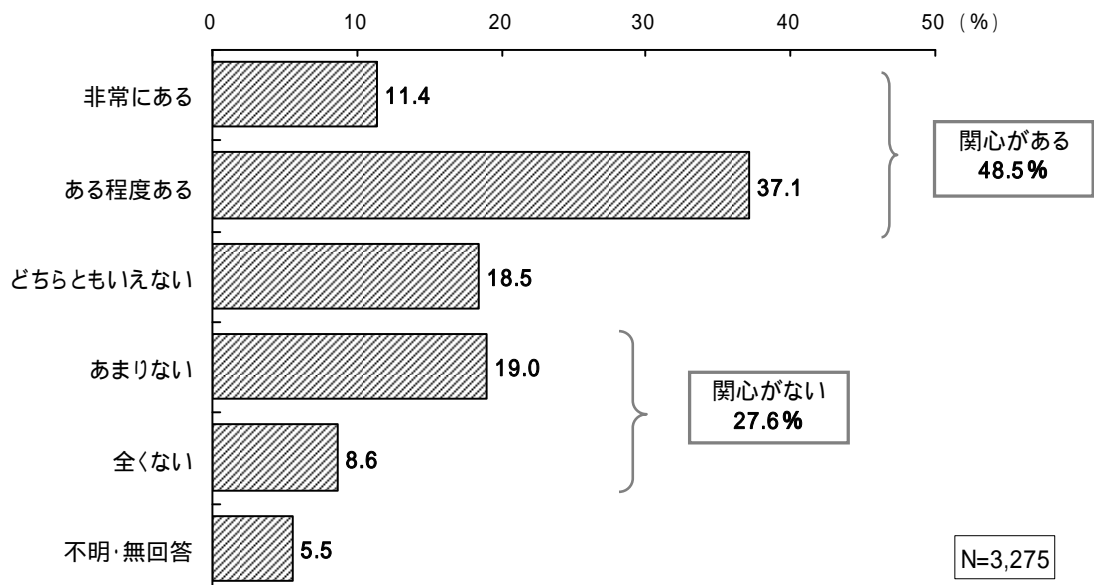
### (1) 科学技術についての考え方

科学技術に対する関心の有無

問31 あなたは、科学技術に関心がありますか。( は1つだけ)

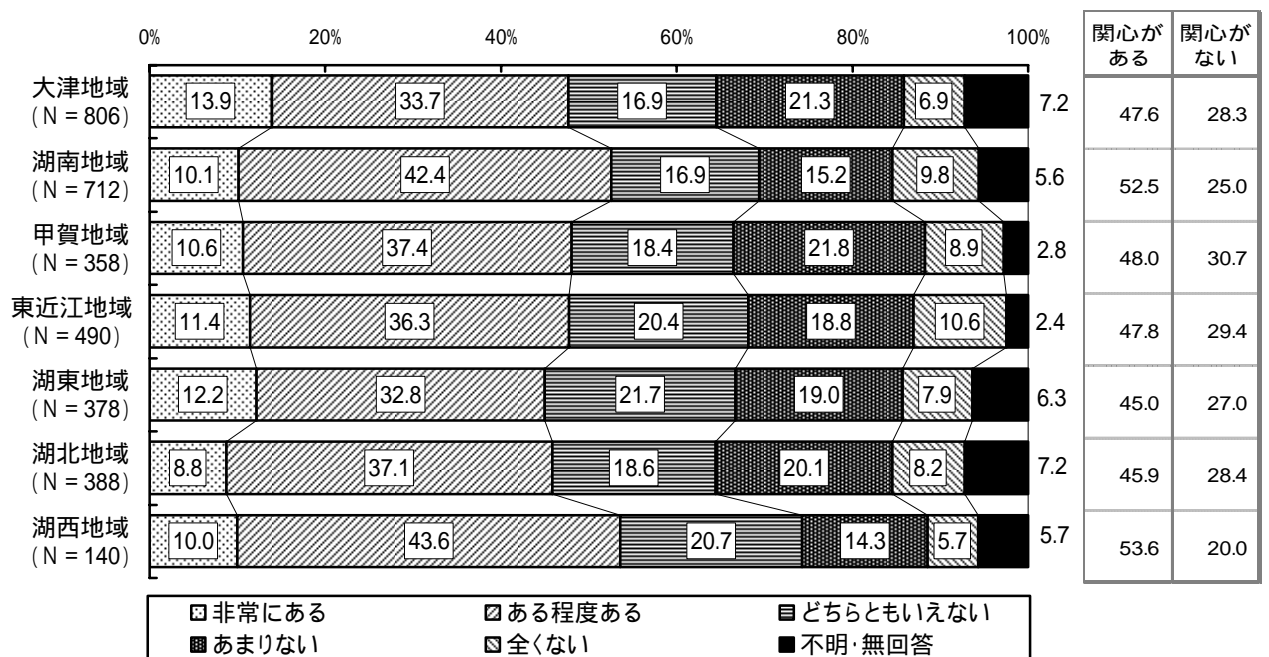
#### 「関心がある」が48.5%

科学技術に対する関心の有無については、「ある程度ある」が37.1%と最も高く、「非常にある」(11.4%)と合計すると、48.5%が『関心がある』と回答している。『関心がない』(「あまりない」と「全くない」の合計)は27.6%となっている。



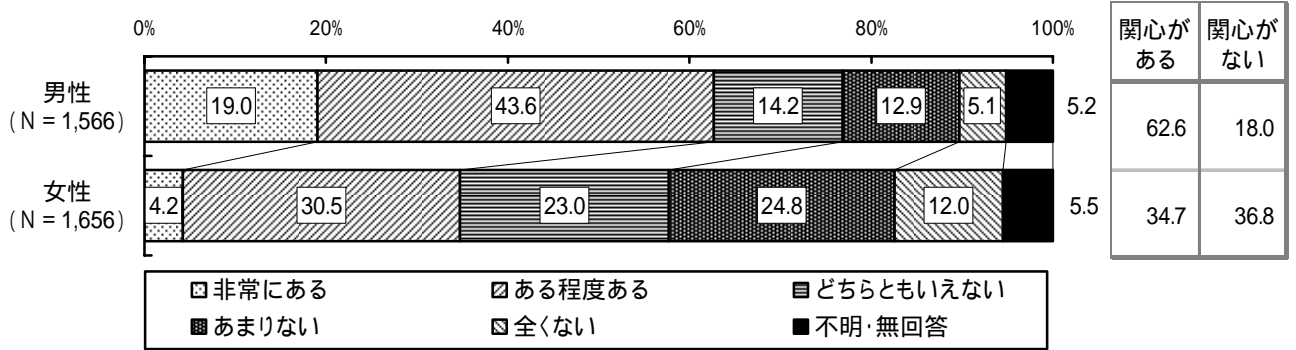
#### 【地域別】

いずれの地域においても「ある程度ある」が最も高く、『関心がある』は湖南・湖西地域で5割以上と他の地域に比べ高い。一方、『関心がない』は甲賀地域が3割と最も高くなっている。



【性別】

『関心がある』は男性が 62.6%、女性が 34.7%となっており、男性に比べ女性の方が 27.9 ポイント低くなっている。また、「非常にある」についても男性（19.0%）に比べ女性(4.2%)の方が 14.8 ポイント低くなっており、傾向に差がみられる。



【性・年代別】

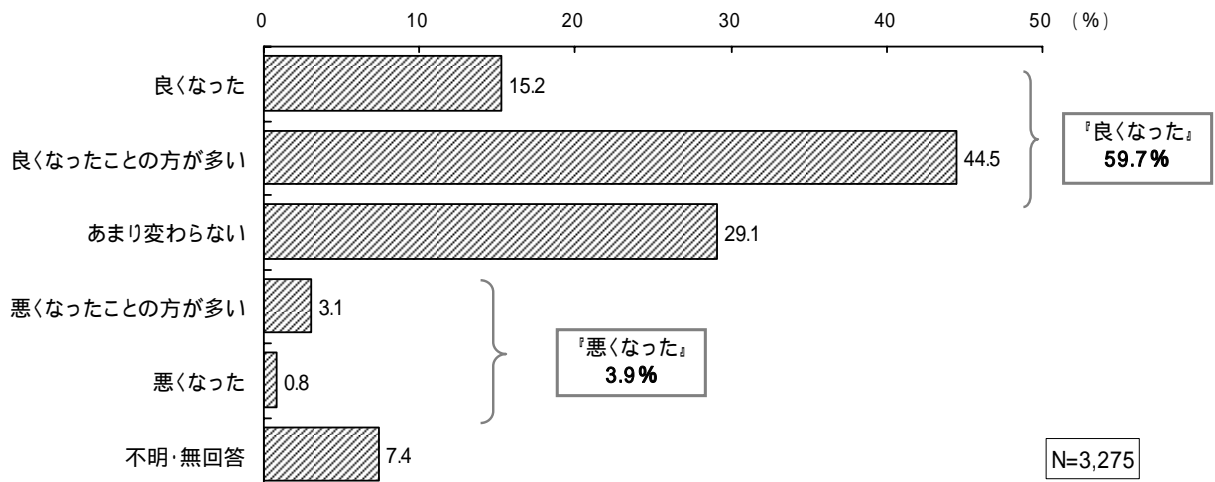
男性では『関心がある』がいずれの年代においても高く、40歳代で65.9%と他の年代に比べ高く、『関心がない』は20・30歳代で2割以上と他の年代に比べ高い。女性では、60歳代を除くいずれの年代においても『関心がない』が最も高く、男性との傾向に差がみられる。『関心がない』で最も高い20歳代では半数を超えている。

科学技術の発達による暮らし向きの変化

問 32 科学技術の発達によって、あなたの暮らしは良くなったと思えますか。（は1つだけ）

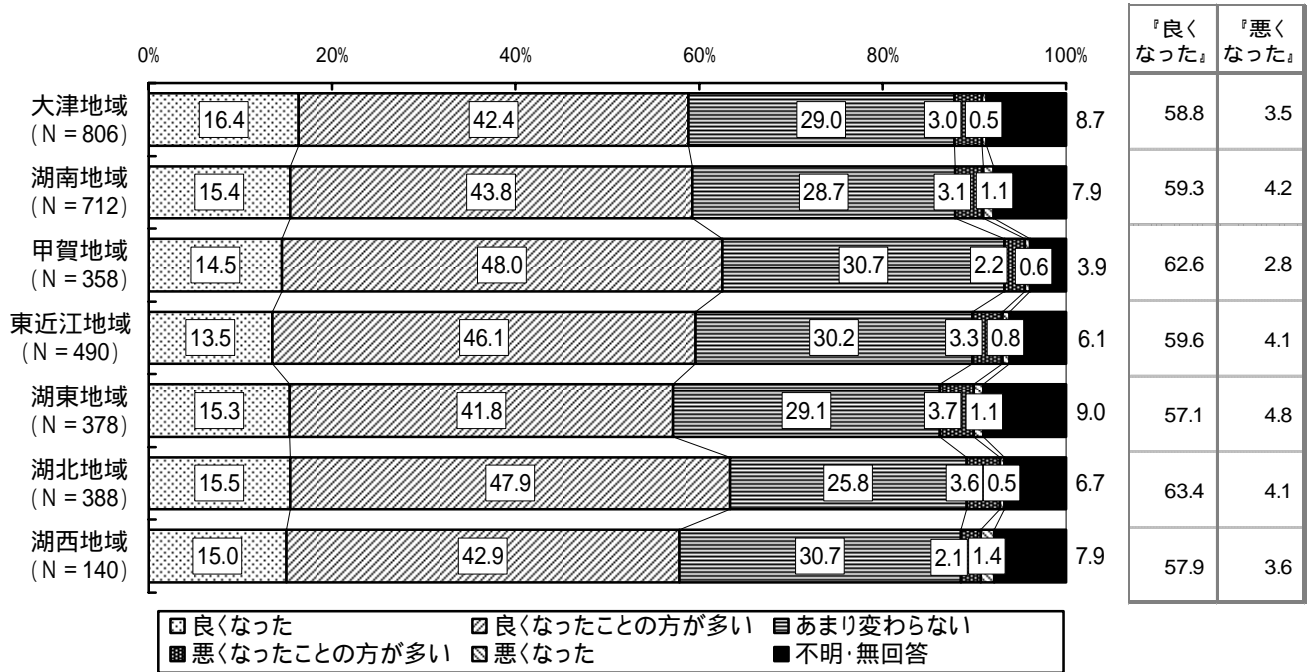
『良くなった』が 59.7%

科学技術の発達による暮らし向きの変化については、「良くなったことの方が多い」が44.5%と最も高く、「良くなった」(15.2%)と合計すると『良くなった』は59.7%と半数を超える。『悪くなった』(「悪くなったことの方が多い」と「悪くなった」の合計)は3.9%、「あまり変わらない」は29.1%となっている。



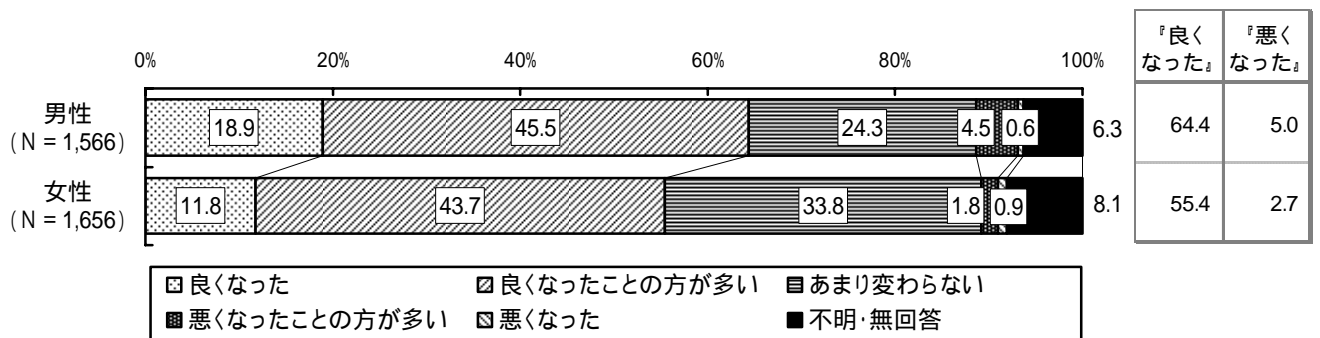
【地域別】

いずれの地域においても「良くなったことの方が多い」が最も高く、『良くなった』は湖北・甲賀地域で他の地域に比べ高く6割を超えている。



【性別】

男女とも「良くなったことの方が多い」が最も高く、『良くなった』は男性（64.4%）に比べ女性（55.4%）の方が9.0ポイント低くなっている。



【性・年代別】

女性の70歳以上は「あまり変わらない」が、その他は男女ともいずれの年代においても「良くなったことの方が多い」が最も高くなっている。『良くなった』は男性の50歳代で7割を超え、女性では40歳代で6割半と他の年代に比べそれぞれ高い傾向がみられる。

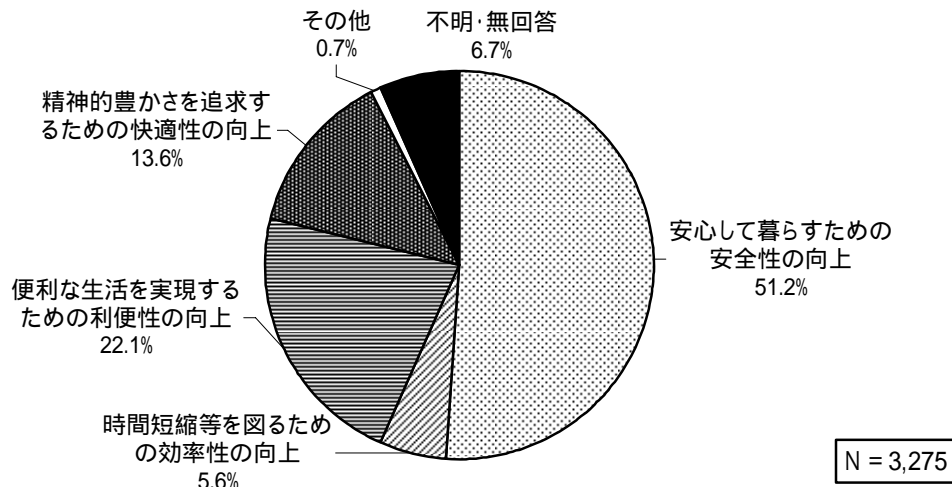
科学技術が果たすべき役割

問 33 科学技術が果たすべき役割について、生活、社会の両面において、あなたが最も重要だと思うものはそれぞれ何ですか。それぞれの項目について、下の欄の1～5の中から選んでください。（はそれぞれ1つずつ）

1) 生活面

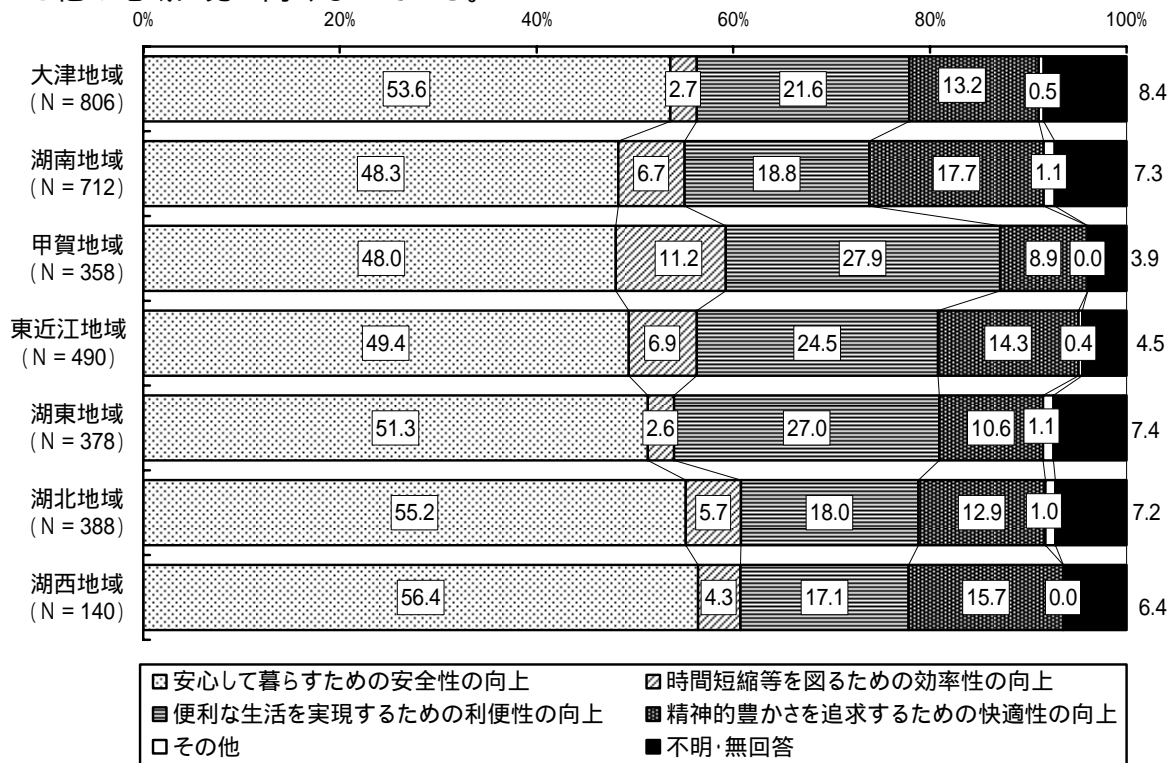
「安心して暮らすための安全性の向上」が51.2%

科学技術が果たすべき役割の生活面については、「安心して暮らすための安全性の向上」が51.2%と最も高く、次いで「便利な生活を実現するための利便性の向上」が22.1%、「精神的豊かさを追求するための快適性の向上」が13.6%となっている。



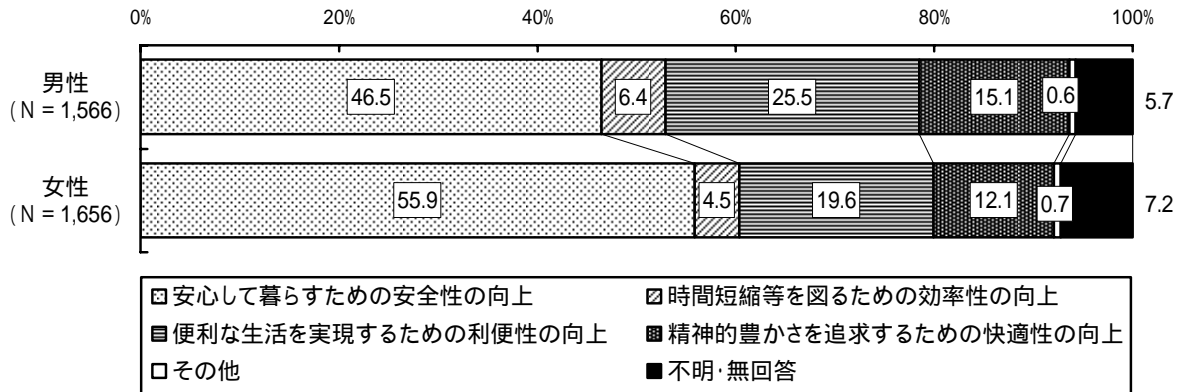
【地域別】

いずれの地域においても「安心して暮らすための安全性の向上」が最も高く、湖西地域で56.4%と他の地域に比べ高くなっている。



【性別】

男女とも「安心して暮らすための安全性の向上」が最も高く、男性（46.5%）に比べ女性（55.9%）の方が9.4ポイント高くなっている。これに次ぐ「便利な生活を実現するための利便性の向上」については、男性（25.5%）に比べ女性（19.6%）の方が5.9ポイント低くなっている。



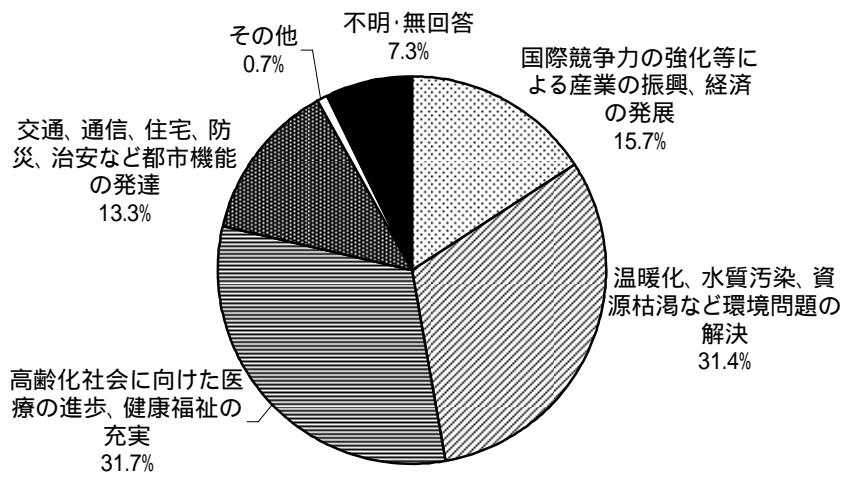
【性・年代別】

男女ともいずれの年代においても「安心して暮らすための安全性の向上」が最も高く、男性では60歳代以上で5割以上、また女性では70歳以上で6割強と、それぞれ他の年代に比べ高い傾向がみられる。

2) 社会面

「高齢化社会に向けた医療の進歩、健康福祉の充実」が31.7%

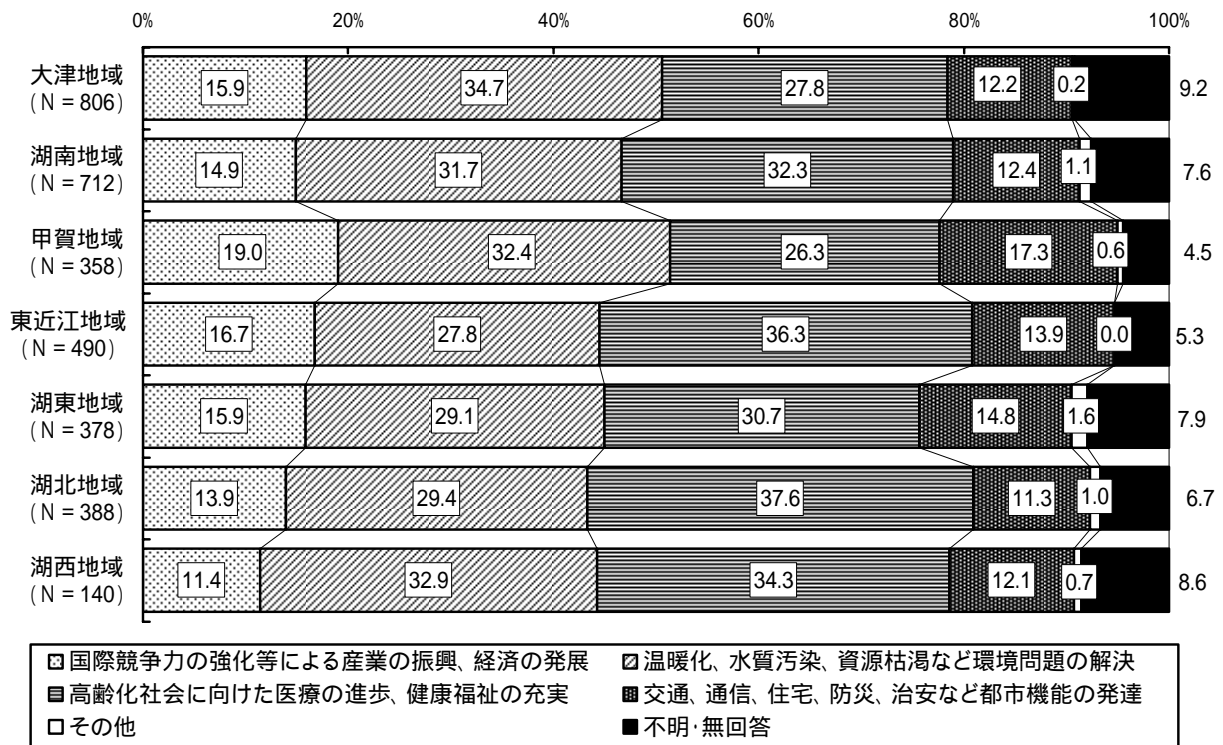
科学技術が果たすべき役割の社会面については、「高齢化社会に向けた医療の進歩、健康福祉の充実」が31.7%と最も高く、次いで「温暖化、水質汚染、資源枯渇など環境問題の解決」が31.4%と僅差で続いている。



N = 3,275

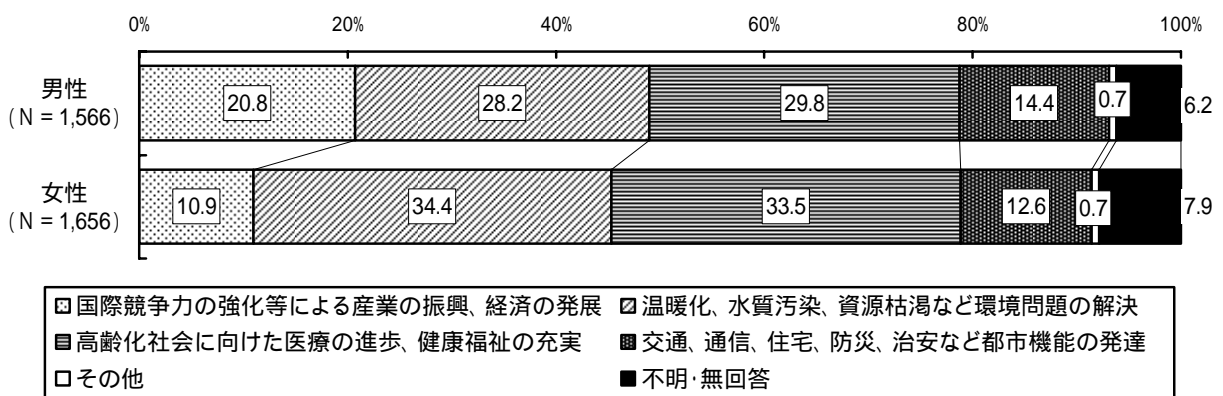
【地域別】

大津・甲賀地域では「温暖化、水質汚染、資源枯渇など環境問題の解決」が、その他の地域では「高齢化社会に向けた医療の進歩、健康福祉の充実」がそれぞれ最も高い。



【性別】

男性は「高齢化に向けた医療の進歩、健康福祉の充実」(29.8%)、女性は「温暖化、水質汚染、資源枯渇など環境問題の解決」(34.4%)がそれぞれ最も高くなっている。



【性・年代別】

女性の20歳代は「温暖化、水質汚染、資源枯渇など環境問題の解決」、「高齢化社会に向けた医療の進歩、健康福祉の充実」が同率で34.1%、その他では、男女とも50歳代以上においては「高齢化社会に向けた医療の進歩、健康福祉の充実」が最も高く、40歳代以下では「温暖化、水質汚染、資源枯渇など環境問題の解決」が最も高くなっている。

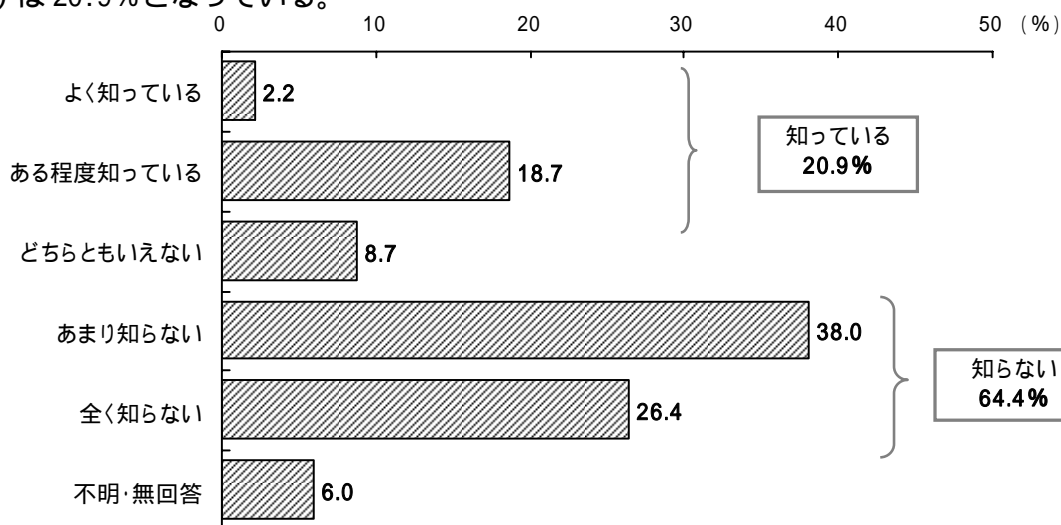
(2) 科学技術振興に向けた県の取組

科学技術振興における県の活動に対する認知度

問 34 県では、工業技術総合センターや琵琶湖環境科学研究センターなどにおける試験・研究のほか、大学、企業等における研究開発の支援等により科学技術の振興を図っていますが、あなたは、こうした県の活動を知っていますか。( は1つだけ)

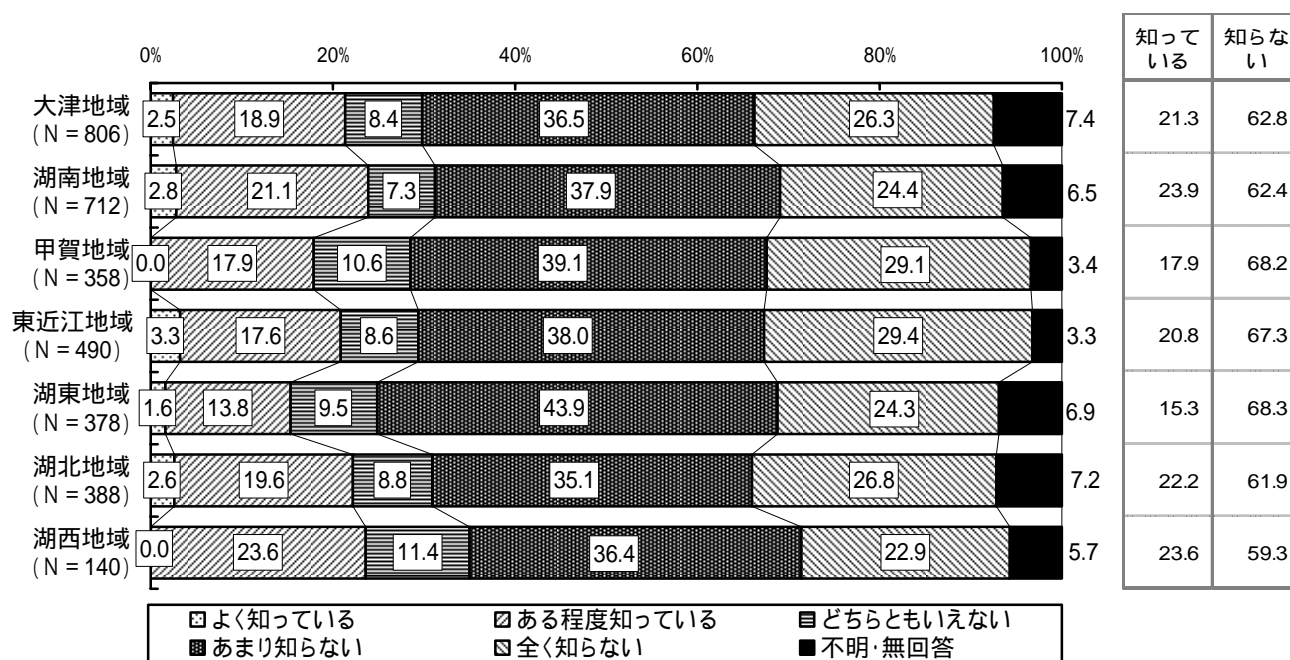
科学技術振興における県の活動は「知っている」が20.9%

「あまり知らない」が38.0%と最も高く、「全く知らない」の26.4%を合計すると『知らない』は64.4%となっている。一方、『知っている』(「よく知っている」と「ある程度知っている」の合計)は20.9%となっている。



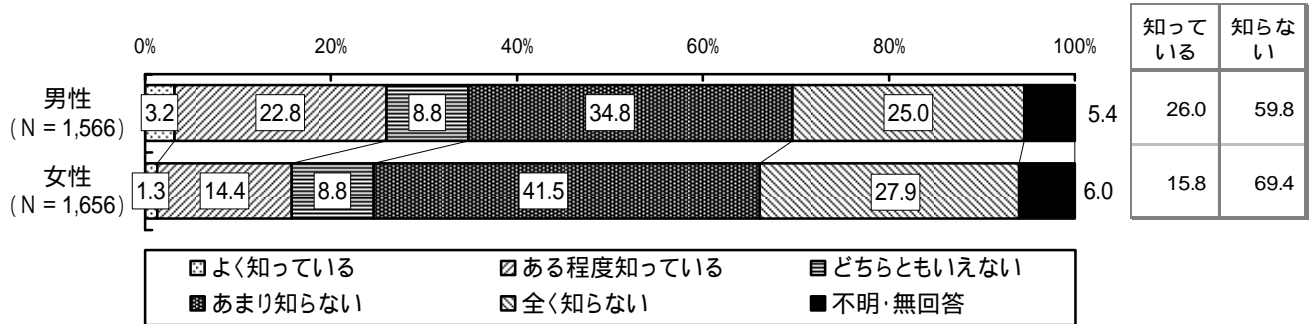
【地域別】

いずれの地域においても「あまり知らない」が最も高く、『知っている』は甲賀・湖東地域でそれぞれ17.9%、15.3%と他の地域に比べ低く、その他の地域ではいずれも2割以上を占めている。



【性別】

男女とも「あまり知らない」が最も高く、男性（34.8%）に比べ女性（41.5%）の方が 6.7 ポイント高くなっている。『知っている』は、男性（26.0%）に比べ女性（15.8%）の方が 10.2 ポイント低くなっている。



【性・年代別】

男性では、20・30 歳代で「全く知らない」が、40・50 歳代、70 歳以上で「あまり知らない」、60 歳代で「ある程度知っている」がそれぞれ最も高く、女性では 20・30 歳代で「全く知らない」が、40 歳代以上で「あまり知らない」が、それぞれ最も高くなっている。『知っている』は、男女とも 70 歳以上で他の年代に比べ高い。

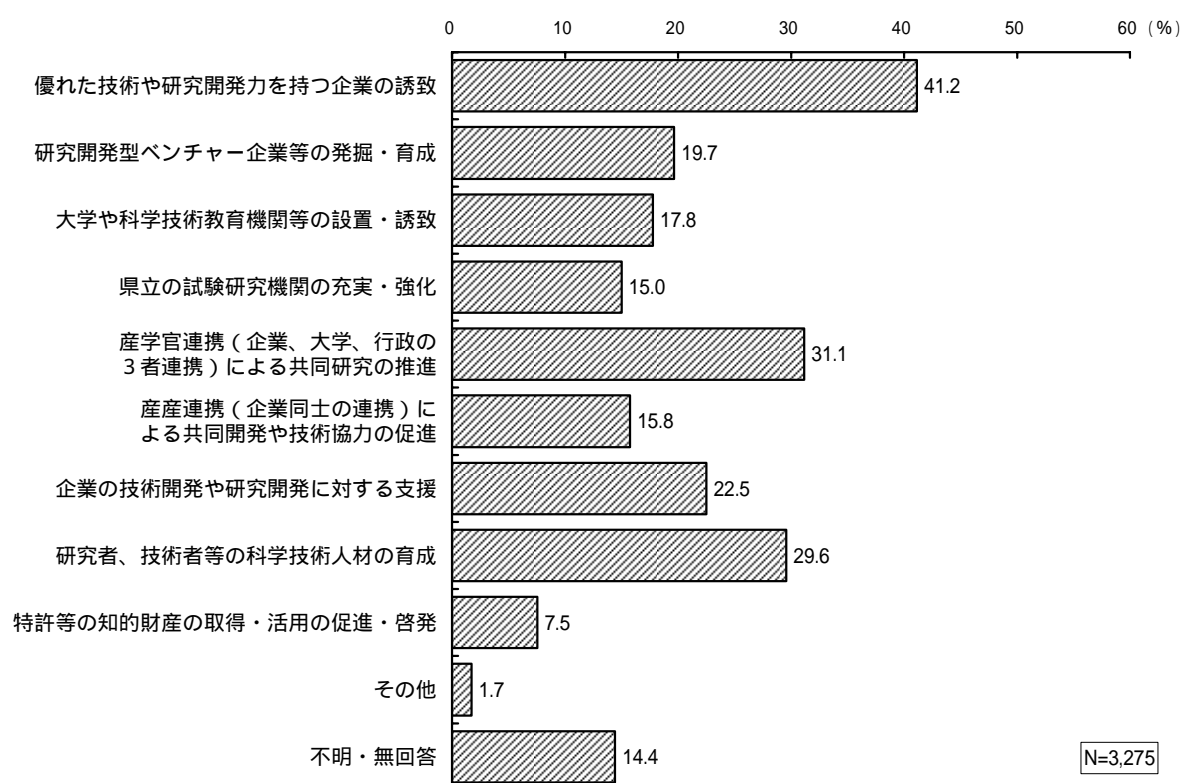


## 科学技術振興のために推進すべき施策

問 35 科学技術の振興のため、あなたは、県がどのような施策を推進すべきだと思いますか。( は3つまで)

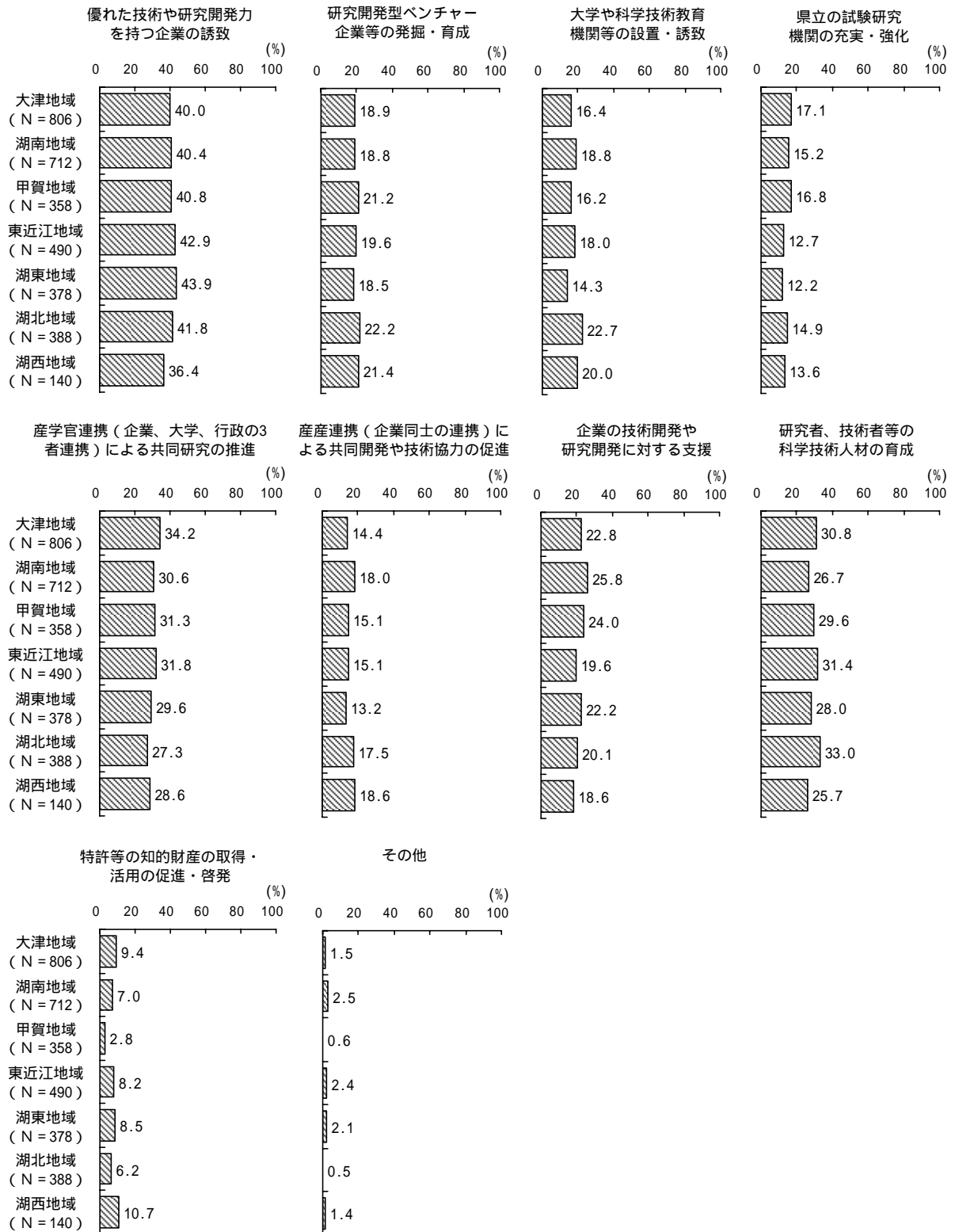
### 「優れた技術や研究開発力を持つ企業の誘致」が41.2%

科学技術振興のために推進すべき施策については、「優れた技術や研究開発力を持つ企業の誘致」が41.2%と最も高く、以下、「産学官連携（企業、大学、行政の3者連携）による共同研究の推進」（31.1%）、「研究者、技術者等の科学技術人材の育成」（29.6%）の順となっている。



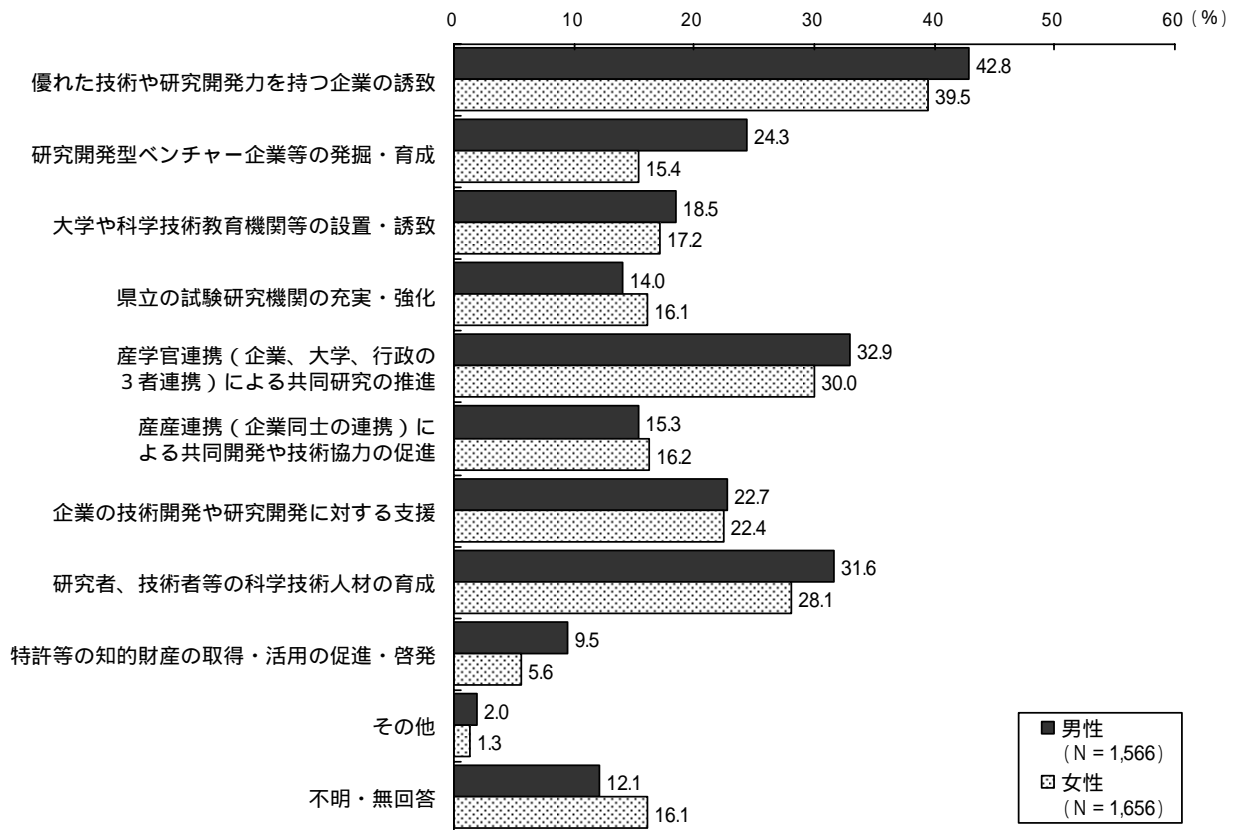
【地域別】

いずれの地域においても「優れた技術や研究開発力を持つ企業の誘致」が最も高く、次いで湖北地域は「研究者、技術者等の科学技術人材の育成」、その他の地域は「産学官連携（企業、大学、行政の三者連携）による共同研究の推進」がそれぞれ続いている。



### 【性別】

男女とも「優れた技術や研究開発力を持つ企業の誘致」が最も高く、次いで「産学官連携（企業、大学、行政の3者連携）による共同研究の推進」、「研究者、技術者等の科学技術人材の育成」の順で続いており、傾向に大きな差はみられないが、「研究開発型ベンチャー企業等の発掘・育成」については、男性（24.3%）に比べ女性（15.4%）の方が8.9ポイント低くなっている。



### 【性・年代別】

男性の20歳代は「産学官連携（企業、大学、行政の3者連携）による共同研究の推進」が最も高く、その他はいずれも「優れた技術や研究開発力を持つ企業の誘致」が最も高くなっており、男女とも50歳代以上で4割を超えている。